

## 福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）5月分報告書

派遣先：マラヤ大学（マレーシア）

氏名：安江 詠星

こんにちはマレーシアのマラヤ大学に留学中の安江です。留学も残すところあと2ヶ月、5月分の報告書になります。今月は授業がある月としては最後の月となり、講義の内容もまとめの時期に入っていました。また、イスラム文化の最重要イベントともいえる断食月間「ラマダン」の時期でもあり、直接自分たち外国人には関係はないものの、文化体験としても濃い月となりました。祖国の新元号の始まりを何の雰囲気も感じとれないまま迎えた5月でしたが（4月の発表の時もバス停に向かって走っていたので生で見られませんでしたが）相も変わらず昨年8月末のマレーシアに来た日から天気も気温も変わらない日々です。よくマレーシアの人は lazy になりがちという話を聞きますが確かに季節の変わり目が全くなければメリハリもつけにくいというものです。朝と夜は涼しく、昼は灼熱、大体夕方に1時間のスコールの日々ですがやっとこの天気にも慣れてきました。今月のマラヤ大学のスケジュールとしては月末で授業が終わり、来月前半はテスト勉強期間という名の長期休み、しかもラマダン明けのハリラヤという行事の時期と被り、やや長めの休み期間となります。ですが節約気味な学生としてはあまり出かける予算もないので退屈な日々になることが予想されます。

さて、授業もまとめの方向に入っているので今回の報告書ではざっくり履修している授業について自分の感想も挙げていければと思います。まず「Comparative Regionalism」という授業は国際関係論の中でも地域主義を中心に学んでいく授業です。地域主義の理論や歴史、現在の状況やそれを形作る要素の比較、ASEAN や APEC のようなマレーシアに関係のあるものだけではなくアフリカや南アメリカなどの地域機構も取り扱っています、俯瞰的にそれらの違いや共通点について検討していくような授業でした。歴史的な背景や理論的な部分はすでにある程度尾理解していることが前提で（ローカル学生はすでに把握している様でした）授業について行くのがかなり難しかったです。その他のASEAN についての授業「China-ASEAN Relations」や「Lecture Series of ASEAN」はそれぞれ中国関係の側面と概要的な面とで多角的に ASEAN を学ぶことができたので良かったです。特に現在の中国の勢いは ASEAN にとっては最重要課題であり、また ASEAN の中でそれぞれの国が持つイデオロギーや経済状況で異なるといったことから事態がかなり複雑になっています。そういった一括りにできない ASEAN の状況について知れたのも勉強になりました。最後の4つ目の授業は Urban Development in Southeast Asia という授業です。東南アジアでの急速な都市化による環境問題や、都市開発を「持続的な発展」にどのようにして繋げるのかという点が興味深かったです。経済発展著しい東南アジアですがゴミ問題や大気汚染については法整備も処理施設も全く整っていないのでそれらの現状を整理して学べたのは良い経験でした。振り返ってみるとマクロな話から

俯瞰的な国際関係の授業まで幅広く学べたので単位交換はどうなるかわかりませんが良い履修内容だったなと感じました。

さて、5月にはマレーシアをはじめイスラム文化圏の国における最重イベント「ラマダン」というものがあります。ラマダンはというのは断食期間で今年は5月5日から6月3日までで(毎年時期は変わります)、期間中ムスリムの方は夜明けから日没まで(マレーシアでは朝5時半ごろから夜の7時20分ごろ)一切の飲食をしないというものです。お年寄りや子ども、妊婦さんや病気の人などは例外になりますがマレーシアの人口の60%を構成しているムスリムの方がこれに従うことになります。もちろんムスリムではない自分たち外国人やマレーシア人でも中華系やインド系は従う必要はありません。ただ、マレー系の人達の前では水を飲まないとかあまり食べ物の話をしないとか、それなりに気を遣わないといけません。単純計算で国民の6割が昼ご飯を食べないので昼の時間のお店は中華系以外はどこも開店休業状態、しかも店員もマレー系なので注文するのは気が引ける時もありました。マレー系の友達と会ってもお茶にもランチにも行けませんが、その分夜ご飯と一緒に食べに行くと彼らのテンションは爆上がりします。7時20分に「食べていいよ」の合図のイスラム教のお祈りの歌のアザーンがモスクからテレビからラジオから館内放送からアプリから流れるのですが、15分を過ぎてからのあのそわそわ感は独特なものがありました。また、ラマダン期間中の週末には各地のモスクを中心にイベントが開かれ無料で食事が配られます。自分もマレー系の友達と行ったり、食料配布のボランティアで手伝ったりと何度か参加しました。日中食べないのはともかく、一切水分を取らないのはさすがに常夏の国としては大変なところがあるだろうと思いましたが結構みんな慣れていらしいです。期間中は文化が日常に浸透している様を目の当たりにし、普段日本に居ると接することができないものを体感できたので良かったです。一ヶ月の断食が開けると「ハリラヤ」というとにかく食べまくるイベントがあるのですがそれはまた来月に書こうと思います。

以上が今月の報告書となります。早いもので残り一ヶ月となってしまいましたが悔いが無いよう過ごしていこうと思います。

(写真：左、ラマダン中の様子。7時20分になるとご飯が食べられるので店に入って待機中。写真は6時半頃で右にいる中華系の方は普通に食べている。右、ボランティアの様子。下、週末の食料配布イベント。街のど真ん中でかなり大規模。)

